

業績目録

(令和3年度～令和5年度)

人間文化学部 教授 (学長) 渡邊 弘

著書

- (1)『創価教育と人間主義』第三文明社、2021年6月。単著
- (2)『21世紀の創価学会論 識者が見た未来への希望』2022年11月。共著
- (3)『産学官民連携による創造都市への挑戦』宇都宮市創造都市研究センター
(担当：おわりに～創造都市実現に向けた創造都市研究センターの活動実績と将来展望) 随想舎、2023年7月。分担執筆
- (4)『教育の危機と現代日本』潮出版社、2024年近刊。単著

学術論文

- (1)「日本人の倫理観の変遷 (その3) 芥川龍之介晩年の講演『明日の道德』にみる大正末期の道德観を手がかりとして―作大論集第15号、2022年8月。単著
- (2)「子供たちが主体的に取り組む道德科の授業～内容項目『感動、畏敬の念』の教材を通して～」作新学院大学教職実践センター紀要第11号、2023年2月。共著
- (3)「現代の日本における教職に関する諸問題について～令和の日本型学校教育における教職をめぐる改革を手がかりとして～」作大論集第17号、2023年8月。単著

【その他】

- (1)「混迷する時代の中の地方私立大学の役割」～産学官金の連携に基づく地域力向上のための人間力育成をめざして～ 株式会社あしぎん総合研究所、あしぎん経済月報、2023年12月。

社会的活動

【各種委員】

- (1)宇都宮市人間力向上フォーラム実行委員会顧問 (2014年4月～現在)
- (2)栃木県連合教育会評議員 (2014年4月～現在)
- (3)宇都宮市うつのみや文化創造財団評議員 (2012年4月～現在)
- (4)とちぎ道德教育実践学会会長 (2013年6月～現在)
- (5)光村図書出版株式会社道德中学校副読本【栃木版】編集顧問 (2013年4月～現在)
- (6)光村図書出版株式会社道德中学校副読本【全国版】編集員 (2013年12月～現在)
- (7)大田原市いじめ問題対策推進委員会会議 (副委員長) (2015年7月～現在)
- (8)大学コンソーシアムとちぎ (理事) (2017年4月～現在)
- (9)清原地区地域振興協議会 顧問 (2017年6月～現在)
- (10)栃木 SC 諮問委員会委員 (2018年4月～現在)

- (11)大関作新館賞選考委員会委員 (2019年9月～現在)
- (12)宇都宮商工会議所顧問 (2019年11月1日～現在)
- (13)宇都宮市教育委員会通学区審議会委員 (2020年7月～現在)
- (14)学校法人ねむの木学園理事 (2020年7月～現在)
- (15)宇都宮市総合計画市民懇談会委員 (2021年11月26日～2023年3月31日)
- (16)第77回国民体育大会 競技会役員 (2022年9月10日～2022年10月11日)
- (17)とちぎテレビ放送番組審議会 委員 (2023年4月1日～現在)

【講演・講話等】

- (1)栃木県小学校教育研究会宇都宮支部道徳支部部会夏季研修会 講演会「子供たちが『学びの実感』をもてる道徳授業について」～道徳科における主体的・対話的な深い学びの工夫とは～ 2022年8月3日
- (2)第5回関東人間教育実践報告大会・第6回栃木人間教育実践報告大会 講評 2022年10月30日
- (3)保育研究会研修会 講演会「宮城まり子とねむの木学園」～愛が愛を生んだ軌跡～ 2023年1月23日
- (4)日本工業倶楽部第546回素修会 講演会『ちゅうくらい』という生き方～<自力>と<他力>の狭間で～ 2023年11月14日

【表彰】

- (1)日本善行会賞秋季善行表彰 一般社団法人日本善行会、2021年12月10日

船田教育会顧問 春日正男

【2023年度】

●**学術論文、国際会議論文（査読付き）**

無し

●**紀要（査読無し）**

- (1)安野巧真、山内祥輝、春日 正男：LRT が拓く地域活性化を目指す新たなまちづくりの検討とコンセプトの提案、作新学院大学紀要、第17号（2023.08）.

●**研究会、学会での口頭発表**

- (1)加藤孝宏、春日 正男：実務家視点による今後の IT 農業推進の方向性についての考察、映像情報メディア学会メディア工学研究会（2023.7）.

●**その他の教育研究活動記録（宇都宮市創造都市研究センターの活動）**

- (1)2022年度～2023年度：大学を超えた共同研究プロジェクト事業：アントレプレナー研究プロジェクト（～現在）
・研究連携大学：宇都宮共和大学、作新学院大学、文星芸術大学、帝京大学・宇都宮

キャンパス

- ・プロジェクト名：創造都市・宇都宮都市圏を目指す地域活性化研究プロジェクト
 - ・プロジェクトリーダー：作新学院大学：春日正男
 - ・サブリーダー：宇都宮共和大学：田部井信芳
 - ・プロジェクトメンバー：
 - ・田部井信芳（宇都宮共和大学 シティライフ学部長）
 - ・山田卓徳（作新学院大学 事務局長）
 - ・長島重夫（文星芸術大学 地域連携センター長）
 - ・乾泰典（帝京大学宇都宮キャンパス 地域連携担当プロジェクトリーダー）
 - ・大木優一朗（大谷石材協同組合 事務局長）
 - ・坂本明（宇都宮市文化財ボランティア協議会 副代表）
 - ・浅野裕子（一社 スリーアクト代表理事）
 - ・堀江則行（トヨタウッドユーホーム（株））
 - ・関連自治体・経済団体等：宇都宮市、宇都宮市まちづくり推進機構、宇都宮商工会議所、とちぎユースサポーターズネットワーク
- (2)第20回学生&企業研究発表会：大学コンソーシアムとちぎ主催（発表：2023年11月）

【フェドラ賞】

「地域を豊かにする Miya Mass の交通インフラの開発」

- ・応募者：宇都宮市創造研究センター プラットホーム共同研究プロジェクトチーム
- ・プロジェクト大学：宇都宮大学、宇都宮共和大学、作新学院大学、文星芸術大学、帝京大学宇都宮キャンパス
- ・発表者：代表：伊藤央恭（作新学院大3年）・他7名

【2022年度】

●学術論文、国際会議論文（査読付き）

無し

●紀要（査読無し）

- (1)相馬聡、春日 正男、武市拓郎、長谷川雄一、福田宏明、綱川勝行：マウスピース装着による新たなスポーツパフォーマンス向上効果の研究、作新学院大学紀要（2022.07）.
- (2)加藤孝宏、春日正男：次世代農業の促進に関する新しい方向性について—DX時代を見据えた新規就農促進のためのテレアグリ の提言—、作新学院大学紀要（2022.07）.

●研究会、学会での口頭発表

- (1)相馬聡、春日 正男、武市拓郎、長谷川雄一、福田宏明、綱川勝行：個人に最適な装着感のあるマウスピース利用によるスポーツパフォーマンス向上効果に関する検討、

2022年度日本感性工学会大会 (2022.8).

- (2)相馬聡、春日 正男、武市拓郎、長谷川雄一、福田宏明、綱川勝行：スポーツパフォーマンス向上効果を目的とするオーダーメイドのマウスピース装着効果に関する実験的検討、ヒューマンインフォメーション研究会 (2022.11).
- (3)招待講演：加藤 孝宏[†]、春日 正男[‡]：DX 時代を拓くテレアグリを目指した新たなアプローチ、映像情報メディア学会メディア工学研究会 (2022.07).
- (4)加藤孝宏、春日 正男：アナログ農業経営からのデジタル農業経営への転換、2022年度日本感性工学会大会 (2022.8).
- (5)安野巧真、山内祥輝、春日 正男：地域活性化を目指す公共施設を利用した新たなまちづくりへのアプローチ、映像情報メディア学会メディア工学研究会 (2023.1).

【2021年度】

●その他の教育研究活動記録 (宇都宮市創造都市研究センターの活動)

- (1)2020年度～2021年度：大学を超えた共同研究プロジェクト事業：アントレプレナー研究プロジェクト (～現在)
 - ・研究連携大学：宇都宮共和大学、作新学院大学、文星芸術大学、帝京大学・宇都宮キャンパス
 - ・プロジェクト名：創造都市・宇都宮都市圏を目指す地域活性化研究プロジェクト
 - ・プロジェクトリーダー：作新学院大学：春日正男
 - ・サブリーダー：宇都宮共和大学：渡邊瑛季
 - ・プロジェクトメンバー：
 - ・渡邊瑛季 (宇都宮共和大学 シティライフ学部講師)
 - ・山田卓徳 (作新学院大学 事務局長)
 - ・長島重夫 (文星芸術大学 地域連携センター長)
 - ・乾泰典 (帝京大学宇都宮キャンパス 地域連携担当プロジェクトリーダー)
 - ・大木優一郎 (大谷石材協同組合 事務局長)
 - ・坂本明 (宇都宮市文化財ボランティア協議会 副代表)
 - ・浅野裕子 (一社 スリーアクト代表理事)
 - ・堀江則行 (トヨタウッドユーホーム (株))
 - ・関連自治体・経済団体等：宇都宮市、宇都宮市まちづくり推進機構、宇都宮商工会議所、とちぎユースサポーターズネットワーク

社会活動

- (1)うつのみやイノベーションコンソーシアム会長 (2022年4月1日～現在に至る)
- (2) (一社) 電子情報通信学会光輝会特別研究専門委員会委員長 (2020年4月1日～2022年3月31日)

- (3) (一社) セキュア IoT プラットフォーム協議会光輝研究会副会長 (2020年10月1日～現在に至る)
- (4) 令和5年度東京都現場対話型スタートアップ協働プロジェクト選定委員 (2023年12月1日～2024年3月31日)

女子短期大学部幼児教育科 教授 坪井真

著書

- (1)「8. 医療型児童発達支援センターでの実習」「11. 児童厚生施設(児童館)での実習」(第2部 福祉施設実習の内容―施設の特徴・活動およびそこでの学び―) 福祉施設実習テキストブッカー―子ども・利用者理解からはじめる実践― 栗山宣夫・小林徹編著 建帛社 2022年4月

学術論文

- (1)「近代期の日本における福祉思想の社会構造史(5)―明治期の神道に内在する倫理思想の特徴②―」作大論集 2021年2月 第12号
- (2)「近代期の日本における福祉思想の社会構造史(6)―明治期における社寺関連法令の特性分析―」鴨台社会福祉学論集 大正大学社会福祉学会 2021年3月 第29号
- (3)「近代期の日本における福祉思想の社会構造史(7)―明治期の教導職制と神社の社格を主題とした先行研究の成果と課題―」作大論集 2021年8月 第13号
- (4)「近代期の日本における福祉思想の社会構造史(8)―明治・大正期に創設されたキリスト教社会事業の通時的特徴の分析―」作新学院大学女子短期大学部研究紀要 2021年12月 第5号
- (5)「近代期の日本における福祉思想の社会構造史(9)―明治・大正期におけるキリスト教社会事業と‘篤志’の関係性―」作大論集 2023年2月 第16号
- (6)「近代期の日本における福祉思想の社会構造史(10)―明治・大正期におけるキリスト教社会事業と‘篤志’の関係性②―」作大論集 2023年8月 第17号

社会的活動

- (1)特定非営利活動法人 介護者サポートネットワークセンター アラジン理事 (2021年6月～現在に至る)
- (2)宇都宮市ふるさと納税公益活動支援事業補助金審査会委員長 (2021年8月～現在に至る)
- (3)千葉県浦安市社会福祉協議会評議員 (2022年4月～現在に至る)
- (4)宇都宮市社会福祉施設等事業者選考専門委員 (2022年5月～現在に至る)
- (5)新潟県胎内市地域福祉計画推進委員会委員 (2022年7月～2023年3月31日)
- (6)栃木県青少年健全育成審議会委員および同審議会指定・推奨部会長 (2022年7月～現在に至る)

- (7)埼玉県三芳町次世代を担う子ども達の支援検討委員会委員 (2022年7月～現在に至る)
- (8)[仮称]宇都宮市住生活マスタープラン策定懇談会委員 (2022年7月～2023年3月31日)
- (9)栃木県子ども・子育て審議会 教育・保育施設等事故検証部会臨時委員 (2023年4月～現在に至る)
- (10)宇都宮市子ども・子育て会議 委員 (2023年7月～現在に至る)
- (11)宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員 (2023年8月～現在に至る)
- (12)栃木県教育委員会 特別支援教育の在り方に関する検討会 委員 (2023年8月1日～現在に至る)

経営学部 教授 天尾久夫

著書

- (1)『銀行の破たん史—日本の金融機関に係わる公的費用負担再生の特徴と諸問題—』天尾久夫：幻冬舎 (2021年9月8日) 301ページ

学術論文

- (1)天尾久夫「日本の地域金融機関の破たんと再生過程とその公的費用負担についての研究—地域金融のバブル期、デフレ不況期、そして平成を越えて—」博士論文 2018年3月19日

学協会誌論文 (査読無し)

- (1)「トランザクションバンキングを指向する銀行の抱える経営の諸問題についての一考察」作新学院大学『作大論集』第9号 152～178ページ 2019年3月
- (2)「消費増税とマネー拡張政策との関係についての一考察」作新学院大学『作大論集』第10号 97～111ページ 2020年2月
- (3)「日本のオリンピック誘致後の経済的影響の一考察 —アメリカとの比較—」作新学院大学『作大論集』第11号 89～110ページ 2020年8月
- (4)「中国、ブラジル、イギリスのオリンピック誘致の経済的影響の一考察 —中国、ブラジル、そしてイギリスとの比較—」作新学院大学『作大論集』第12号 85～101ページ 2021年2月
- (5)「コロナ禍のもと、日本国内の消費の現況についての一考察 —コロナ下と雇用調整助成金の施策による家計消費への影響の推計—」作新学院大学『作大論集』第13号 139～153ページ 2021年2月
- (6)「気候変動リスクに対する金融機関の規範についての一考察 —TCFD提言と金融部門、ESG融資とSDGsと地域金融機関—」作新学院大学『作大論集』第14号 2022年2月 133～166ページ
- (7)「為替レート変動と輸出・輸入価格と国内賃金・収益変化との相殺関係についての一

考察 「賃金、収益変化による貿易諸量調整作用の推計」 作新学院大学『作大論集』
第15号 2022年8月 101～129ページ

(8)「金融機関の融資に関するサステナビリティ関連情報と環境会計共通化に関する一
考察」 作新学院大学『作大論集』第16号 2023年2月 71～92ページ

(9)「企業の資本規模別、物価水準と賃金との関係についての一考察 ―日本の企業規模
や利益、内部留保の状況が賃金・報酬におよぼす影響―」 作新学院大学『作大論集』
第17号 2023年8月 87～105ページ

口頭発表論文（研究会等）

(1)「信金中央金庫の研究」 天尾久夫 故和合肇先生追悼記念コンファレンス 松島セ
ンチュリーホテル 2017年3月

(1)地方財政研究会 理事(2001年4月1日～現在に至る)

(2)宇都宮市公金管理運用相談員(2017年4月1日～現在に至る)

経営学部 准教授 中川仁美

著書

(1)第4章商品売買：簿記の問題集（応用編） 相川奈美 創成社 2021年4月 pp.22-29

(2)第4章収益・費用：会計学ハンドブック 村田直樹 創成社 2021年5月 pp.52-61

(3) Supply Chain Models and Functions of Food Service Chains in Japan : The Food SPA at Saizeriya
: Frameworks and Cases on Evolutional Supply Chain Toru Higuchi IGI Global 2022年4月
pp.194-214

学術論文

(1)スポーツと日常生活に関する研究 ―歴史的変遷を手掛かりとして―：作新学院大学
論集 2022年2月 第14号 pp189-204 石川順章、齊藤麗

(2)外食チェーン店サイゼリヤのサプライチェーン・マネジメント・モデルの検討：作新
学院大学論集 2024年2月 第18号 齊藤麗

学会での口頭発表等

(1)19世紀におけるアメリカ鉄道会社の発展：鉄道史学会第39回大会 2021年11月27日

社会的活動（自治体・産学界・NPO・NGO等の活動）

(1)栃木労働局公共調達監視委員会 栃木労働局公共調達監視委員（2021年8月～現在に
至る）

経営学部 講師 小寺 美沙季

学術論文

- (1)大学運動部に所属する部員が企業スポーツに求める支援体制—作新学院大学における運動部に所属する部員を事例として—：作新学院大学論集 2022年8月 pp.215-226
石川智、斉藤麗
- (2)栃木県における企業のスポーツ・スポンサーシップの実態：作新学院大学論集 2023年2月 pp.225-236 石川智、石川順章、斉藤麗

経営学部 特任講師 森亮太

学術論文

- (1)キャッシュ・フロー計算書と他の財務諸表のつながり—キャッシュ・フロー計算書の再検討—：作大論集 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部編 第16号 2023年2月 pp.181-196
- (2)大学における簿記教育のあり方についての検討—会計リテラシー教育を意識した簿記教育—：教職実践センター研究紀要 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部編 第11号 2023年2月 pp.45-72
- (3)ポイント制度の性質と会計処理：作大論集 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部編 第17号 2023年8月 pp.139-154
- (4)キャッシュ・フロー計算書と現金主義：作大論集 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部編 第18号 2024年2月

人間文化学部 教授 牧裕夫

学術論文

- (1)「資質」領域でのコミュニケーション・スキルと A.Adler 共同体感覚の相互性—レジリエンス「資質」「獲得」2因子による検討—：作大論集 第13号 2021年8月30日 pp.93-112 共著者 小野崎瑛美
- (2)status nascendi (生まれいずる状況) から見える心理劇の地平—第26回日本心理劇学会栃木大会「共通点を求めて」—：「心理劇」第26巻 2021年12月 pp.7-14
- (3)コラージュ制作 PDI での次回作「指向性」からの検討—本来感との関連から量的研究として—作大論集 第15号 2021年8月 pp.227-274 共著者 長谷川知花
- (4)サイコドラマとメンタライジングの共通性と可能性—自閉症者事例にみる action からメタ認知構造への展開—：日本心理劇学会第28回大会抄録 2022年12月10日 p32
- (5)相談体験から出会った10のカ・タ・チーサイコドラマとの接点の中で—：作新学院大学臨床心理センター研究紀要 第16号 2023年10月15日 pp.1~6

- (6)増野式曼荼羅サイコドラマとサイコドラマにある曼荼羅—「君たちはどう生きるのか」—：日本心理劇学会第29回大会抄録 2023年12月16日 p26

社会活動

- (1)栃木県臨床心理士会理事（2014年～現在）
- (2)上都賀地区スクールカウンセラースーパーバイザー（2014年～現在）
- (3)栃木県臨床心理士会性的マイノリティ電話相談部長（栃木県委託事業）（2021年～現在）
- (4)宇都宮市子ども未来課 いじめ調査委員会（学識経験者）会長（2021年～2022年）
- (5)日光市教育委員会 日光市いじめ問題対策委員（2021年～2023年）
- (6)作新学院大学まちづくりラジオ部（2022年7月22日放送）出演
- (7)令和4年度防災士養成研修講座 講師「災害時の心理とメンタルケア」（2022年11月26日、2023年10月21日 作新学院大学2101教室）
- (8)宇都宮市青少年自立支援センター主催「若者の自立支援講演会」講演
「ひきこもる若者のこころの理解とかかわり方」（2022年11月27日 宇都宮市役所14大会議室）同講演宇都宮市役所から youtube 動画配信（https://www.youtube.com/watch?v=WB_ZPZQxdAE）
- (9)第19回「学生&企業研究発表会」
ジェイテクトファインテック賞（(株)ジェイテクトファインテック）受賞
人間文化学部心理コミュニケーション学科 牧ゼミ4年高瀬武弘さん他5名
「クラウド時代こそ深層心理学の活用を期待—企業プラットフォームの構築に学生の発からヒントが—」令和4年12月3日
- (10)令和5(2023)年度「とちぎにじいろダイヤル」連絡会議（2023年11月5日（日）とちぎ男女共同参画センター 302会議室）

人間文化学部 准教授 安齊薫

論文

【単著】

- (1)「棟方志功とホイトマンをめぐり—考察：棟方作品における“prayer”とホイトマンの“passion”」：『ホイトマン研究論叢』第38号、2022年9月、pp.91-95

学会での口頭発表

- (1)シンポジウム「ホイトマンの『草の葉』におけるキーワード」パネリスト「棟方志功とホイトマンをめぐり—考察」：日本ホイトマン協会第59回全国大会 2021年10月

人間文化学部 准教授 川原健太郎

学術論文

- (1)川原健太郎「「ラグビーのまち府中」の歩みと諸相—地域文化としてのラグビーの視点から—」、府中市史編集委員会編「新 府中市史研究 武蔵府中を考える」第3号、府中市、2021年2月、pp.15-24。
- (2)川原健太郎「地域文化運動における教師の役割に関する研究—戦後の書く実践を対象にして—」、「作大論集」第12号、作新学院大学作新学院大学女子短期大学部、2021年2月、pp.37-54。
- (3)川原健太郎「学校と地域の連携・協働による教育実践に関するケーススタディー—地域課題解決型キャリア教育「烏山学」を対象として—」、「早稲田大学教育学会紀要」第22号、早稲田大学教育学会、2021年3月、pp.24-31。
- (4)川原健太郎「授業における板書活用に関する実践研究」、「教職実践センター研究紀要」第9号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部、2021年2月、pp.23-32。
- (5)川原健太郎、玉城要「課題提示型授業に関する実証的研究」、「作大論集」第13号、作新学院大学作新学院大学女子短期大学部、2021年8月、pp.53-68。
- (6)川原健太郎、玉城要「「課題提示型授業」運用の実践研究—新たな授業スタイル構築の検討—」、<作大論集>第14号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部、2022年2月、pp.37-52。
- (7)川原健太郎「教育課程における能動的な学びに関する史的研究—主体的・対話的で深い学びの視点から—」、<教職実践センター研究紀要>第10号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター、2022年2月、pp.13-20。
- (8)川原健太郎「学校と地域の連携に関する事例研究—栃木県宇都宮市における小中一貫教育・地域学校園を対象として—」、<早稲田大学教育学会紀要>第23号、早稲田大学教育学会、2022年3月、pp.9-16。
- (9)川原健太郎「阪本越郎の視聴覚教育論に関する研究」、<作大論集>第15号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部、2022年8月、pp.70-80。
- (10)川原健太郎「遠隔授業におけるアナログメディア活用に関する一考察」、<教職実践センター研究紀要>第11号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター、2023年2月、pp.25-32。
- (11)川原健太郎「教員史における「自分史」の意義の再検討」、<早稲田大学教育学会紀要>第24号、早稲田大学教育学会、2023年3月、pp.33-40。
- (12)川原健太郎「「アフターコロナ」における子どものメディア・リテラシーの現状と課題に関する研究」、<作大論集>第17号、作新学院大学作新学院大学女子短期大学部、2023年8月、pp.37-49。

学会での口頭発表等

- (1)「書く実践における手紙の研究―「ふだん記」を対象として―」、日本社会教育学会第68回研究大会、オンライン開催（運営校・明治大学）、2021年9月。
- (2)「教員史における「自分史」の意義の再検討」、早稲田大学教育学会2023年度研究大会、オンライン開催、2023年3月。
- (3)「地域文化運動としてのラグビーの研究―「ラグビーのまち 府中」を対象に一」、日本社会教育学会第70回研究大会、オンライン開催（プロジェクト研究発表）、2023年9月。

その他

- (1)（研究報告書）「私立大学の教員養成の役割に関する実証的研究―私立大学出身教員の「自分史」に焦点を当てて―」、作新学院大学令和2年度教育研究開発改善経費研究 研究報告書、2021年3月。
- (2)（書評）「小林史・小林千枝子『母と娘の物語』」、「教職実践センター研究紀要」第9号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部、2021年2月、pp.63-64。
- (3)（エッセイ）「橋本義夫「マイナスをプラスにする」考」、「みちのくふだん記」80号、ふだん記みちのくグループ、2021年3月、pp.22-25。
- (4)（書評）川原健太郎「「窪全亮と小俣勇」特別展示実行委員会編『窪全亮と奚疑塾・小俣勇と和算塾～市民の研究発表～』」、公益財団法人たましん地域文化財団「多摩のあゆみ」第184号、2021年11月、pp.102-103。
- (5)（書評）川原健太郎「橋本鋼二『おおすず こすず』」、＜教職実践センター研究紀要＞第10号、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター、2022年2月、pp.85-86。
- (6)（書評）川原健太郎「ライダー・キャロル（栗木さつき訳）『バレットジャーナル 人生を変えるノート術』」、2023年2月、pp.145-146。

社会的活動

- (1)府中市史編さん専門部会委員（2016年12月～現在に至る）
- (2)西東京市社会教育委員（2017年7月～現在に至る、2022年7月より議長）
- (3)西東京市教育計画策定懇談会委員（2022年7月～現在に至る、2022年7月より副座長）
- (4)八王子市立由井中学校「ICT教育授業」講師、於八王子市立由井中学校、2021年10月27日。
- (5)八王子市立由井中学校「道徳授業地区公開講座」講師、於八王子市立由井中学校、2022年6月27日。
- (6)日本社会教育学会第69回研究大会（オンライン開催（運営校・北海道大学））プロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」司会、2022年9月18日。

- (7)日本社会教育学会六月集会（於：田園調布学園大学）プロジェクト研究「社会教育における余暇・レクリエーションの再検討」コメンテーター、2023年6月3日。

人間文化学部 准教授 木村雅史

学術論文

- (1)「コミュニティカフェにおける場の定義と主体的参加——ドラマトゥルギーの観点から」『社会学年報』東北社会学会年報編集委員会，2022年11月30日，51号，pp.69-79.
(2)「特集『スティグマの可視性／不可視性と権力作用』に寄せて」『社会学研究』東北社会学研究会，2022年12月26日，107号，pp.1-11.

学会での口頭発表等

- (1)「コミュニティカフェにおける活動の定義と主体的参加——仙台市郊外X市におけるコミュニティカフェ事業の事例より」：第94回日本社会学会大会（オンライン形式），2021年11月13日.
(2)「スティグマの可視性／不可視性と権力作用」：2021年度東北社会学研究会大会シンポジウム（オンライン形式），2021年12月4日.
(3)「スティグマの可視性概念の検討」：第95回日本社会学会大会，2022年11月13日.
(4)「午前の部コメント」：ゴフマン生誕100周年記念シンポジウム・ゴフマン研究の現代的展開（ハイブリッド形式），2022年11月19日.
(5)「ゴフマンの自己論——役割と役割の区別に着目して」：第69回東北社会学会，2023年7月16日.
(6)「アクションと感情管理」：状況の社会学研究会・第1回研究例会，2023年12月2日.
(7)「アクションと感情管理」：状況の社会学研究会・大阪大学大学院人間科学研究科臨床教育学講座人間変容論研究分野主催シンポジウム「アーヴィング・ゴフマンと状況の社会学」，2023年12月23日.

社会的活動

- (1)放送大学栃木学習センター 講師（2022年12月4日～2022年12月11日）

人間文化学部 専任講師 石塚祐香

1. 著書

(1)学術図書

1. 石塚祐香：「第3章 まねし合うことから始まるコミュニケーション」，「第5章 教え合いで発展するコミュニケーション」阪口幸駿，富田健太編著『「合う」のメカニズムを科学する - 影響し合う「あなた」と「わたし」の心理学』ミネルヴァ書房，31～41頁（第3章），55～64頁（第5章），2024.

2. 石塚祐香：「自閉スペクトラム障害（症）のある幼児児童生徒の生活上の困難にはどのようなものがあるの？」，米田宏樹・川合紀宗編『新・教職課程演習 第6巻』，協同出版，104～105頁，2022年。

2. 査読付学術雑誌論文

1. Ishizuka, Y., Fujimoto, N., Uruno, S., Aoki, Y., & Noro, F (in press) . Parent-therapist collaborative intervention model using contingent imitation in a minimally verbal school-aged child with autism spectrum disorder, *Child & Family Behavior Therapy*, 2024.
2. Asaoka, H., Okamura, S., Baba, C., Fujimoto, N., Ishizuka, Y., & Takahashi, T., Influence of the COVID-19 pandemic on children with autism spectrum disorder and their mothers in Japan, *Autism and Developmental Language Impairments*, Vol.8, 18pages, 2023.
3. Ishikawa, N., Ishizuka, Y., Kano, Y., Iida, J., & Yamamoto, J. I. Exploring factors of successful transition to elementary school among children with autism spectrum disorder in Japan : a focus group study. *International Journal of Developmental Disabilities*, 1-10, 2022.
4. 宇留野哲，青木康彦，石塚祐香，藤本夏美，野呂文行：「自閉スペクトラム症児を対象としたオノマトペを用いた関わりの検討」，特殊教育学研究，59巻，4号，257～267頁，2022年。
5. 石塚祐香，石川菜津美，山本淳一：「幼児期の自閉スペクトラム症児の行動問題に対するビデオフィードバック・パッケージの効果」，LD研究，第30巻，138～151頁，2021年。
6. 石塚祐香・山本淳一：「自閉スペクトラム症児の音声言語に対する随伴模倣を用いた介入の効果 - 遊び場面における発声・発話機会設定の有無に関する検討 - 」，行動分析学研究，第36巻1号，第36巻1号，46～57頁，2021年。
7. 野田航，石塚祐香，石川菜津美，宮崎優，山本淳一：「発達障害のある児童の漢字の読みに対する刺激ペアリング手続きを用いた遠隔地学習支援の効果」，認知行動療法研究，第47巻，1～13頁，2021年。
8. Ishizuka Y., and Yamamoto J., The effect of contingent imitation intervention on children with autism spectrum disorder and co-occurring intellectual disabilities. *Research in Autism Spectrum Disorder*, Vol. 85, pp.1-18, 2021.
9. 石塚祐香・石川菜津美・山本淳一・野呂文行：「自閉症・情緒障害特別支援学級の自立活動におけるビデオモデリングを用いたソーシャルスキル指導の効果と社会的妥当性の検討」，障害科学研究，第45巻，211～226頁，2021年。
10. 石塚祐香，石川菜津美，山本淳一，野呂文行：就学前の自閉スペクトラム症児における対人・集団行動ルールの獲得支援—保護者によるビデオ教材を用いた就学移行支援の効果—。障害科学研究，第45巻，255～268頁，2021年。

3. 査読無学術雑誌論文

1. 石塚祐香：「言語発達障害」 *Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery*, 第39巻 第5号, 529～531頁, 2023年.
2. 山本淳一, 石塚祐香, 大森幹真：「応用行動分析家の行動形成」慶應義塾大学社会学研究科紀要 人間と社会の探究「山本淳一先生退職記念」第93巻 123-127頁, 2022年
3. 井上雅彦, 石塚祐香, 山本淳一：「自閉スペクトラム症児に対するコミュニケーション支援研究の軌跡」慶應義塾大学社会学研究科紀要 人間と社会の探究「山本淳一先生退職記念」第93巻 113-122頁, 2022年.
4. 野呂文行, 石塚祐香：「我が国における「刺激等価性」研究の軌跡：筑波 - 明星 - 慶應間の協同・交流」慶應義塾大学社会学研究科紀要 人間と社会の探究「山本淳一先生退職記念」第93巻 61-67頁, 2022年.
5. 石塚祐香：「言語発達障害のマネジメント」, *Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery*, 第37巻 6号, 619～622頁, 2021年.

4. 学会での口頭発表等

1. 石塚祐香, 江崎夏生, 野呂文行：知的障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する社会的参照行動の成立条件に関する検討, 日本行動分析学会第41回年次大会, 立命館大学 (大阪府茨木市), 2023年9月
2. Ishizuka, Y., Kakuwa, M., Development and Evaluation of a Developmental Support and Problem-Solving Platform for Young Children with Special Needs Enrolled in Kindergarten and Their Parents, 10th World Congress of Cognitive and Behavioral Therapies, COEX Convention Centre, Seoul, Korea, Poster1156 (PB13-08), June2023.
3. Ishizuka, Y., Fujimoto, N., Uruno, S., Aoki, Y., Noro, F., The effect of a parent and therapist implemented brief intervention using contingent imitation on spoken language in a minimally verbal school-aged child with autism spectrum disorder, Association for Behavior Analysis International 17th Annual Autism Conference, Hilton San Diego Bayfront Hotel, San Diego, USA, Poster (#7 A37), February2023.
4. 根本由香里, 和田多香子, 石塚祐香, 野呂文行：SNSによる遠隔フィードバックを活用した自閉スペクトラム症児の保護者への模倣手順指導 -SNSによるフィードバックを用いた効果の検討 -, 日本特殊教育学会第60回大会, ポスター発表 2022年9月19日
5. 和田多香子, 根本由香里, 石塚祐香, 野呂文行：知的障害を伴う ASD 児の社会的反応の生起促進に向けた随伴応答の方法の検討 -机上におけるおもちゃを用いた遊び場面において -, 日本特殊教育学会第60回大会, ポスター発表 2022年9月19日
6. 石塚祐香, 藤本夏美, 野呂文行：発達障害児に対するオンライン学習支援：熟語読

みの獲得・般化・維持に及ぼす効果の検討 ポスター発表 2022年 9月19日

7. 川原功司, 石塚祐香, 吉村優子: 自閉スペクトラム症児と大人間の相互行為場面における共同注意の分析, (「自閉スペクトラム症 (ASD) における言語と共感」シンポジウム, 招待講演), 2022年 8月12日, 東北大学 (宮城県仙台市)
8. 石塚祐香, 野呂文行: 知的障害のある自閉スペクトラム症児に対する家庭学習支援: 刺激ペアリング手続きを用いた段階的な語読みの獲得と般化, 障害科学学会2021年度大会, オンライン開催, ポスター発表 2022年 3月 5日
9. 池田遥香, 石塚祐香, 野呂文行: Rapid motor imitation antecedent を用いた ASD 児の音声模倣の促進, 日本特殊教育学会第59回大会, オンライン開催, 口頭発表 2021年 9月19日
10. 池田遥香, 石塚祐香, 野呂文行: Rapid motor imitation antecedent が音声模倣の精度に及ぼす効果, 日本行動分析学会第39回年次大会, オンライン開催, ポスター発表 2021年 8月29日

5. 社会的活動

1. 東京都江戸川区発達相談・支援センター 「令和5年度第4回発達が気になる子の親支援講座-遊びとつながる発達支援-遊びにつながる発達支援」講師 (2023年10月4日)
2. とちぎ道德教育実践学会 講演会「様々な配慮を要する子供たちがいる通常学級における道德教育のあり方」講師 (2023年 7月15日)
3. 公認心理師の会 教育・特別支援部会 2022年第2期研修会「学校・教育領域におけるソーシャルスキルトレーニングの理論と実際」講師 (2023年 3月 5日)
4. NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク 宇都宮市創造都市研究センター まちなか大学 講師 (2022年10月21日)
5. EDS-NETWORK「エビデンスに基づく発達支援スキルアップ講座」講師 (オンライン講座, 2022年 8月～現在にいたる)
6. 江戸川区発達相談・支援センター 公開シンポジウム「“好き”をのぼし” つよみ”を活かす発達支援」講師 (2022年 6月25日)
7. 特定非営利活動法人 ADDS 障害児相談支援事業 スーパーバイザー (2021年 4月～現在にいたる)

人間文化学部 心理コミュニケーション学科 講師 下郷大輔

○分担執筆

- (1)受刑歴のある父親の養育: 養育者としての男性—父親の役割とは何か— 数井みゆき (著編) ミネルヴァ書房 2021.7.30 pp257-279

○学術論文

- (1)若年受刑者の語りから考える社会復帰と家族 現代の社会病理 (38) 日本社会病理学会編 2023.8 pp5-19

○学会での口頭発表等

- (1)The Impact of Group Work on Inmates' Parent-Child Conflicts : ASIAN CRIMINOLOGICAL SOCIETY 12th Annual Conference. Online (2021.6)
- (2)「加害者と家族」をめぐる心理臨床：日本家族心理学会第38回大会 大会シンポジウム企画・司会 (2021.11) 共同発表者：工藤晋平、藪内秀樹、原敬、中川嘉子
- (3)受刑者の語りから考える社会復帰と家族：日本社会病理学会第38回大会 (2022.11) 大会シンポジウムシンポジスト 日本社会病理学会第39回大会プログラム pp24
- (4)釈放前の若年男性受刑者が語る家族関係：日本家族療法学会第40回大会 (2023.9) 家族療法研究第40巻第2号 pp36
- (5)司法療育の外で出会う犯罪的な心の要素—第4回司法心理療法の夜明け—：日本心理臨床学会第42回大会 (2023.10) 自主シンポジウム司会

○社会的活動 (自治体・産学界・NPO・NGO等の活動)

なし

人間文化学部 特任教授 木村直人

論文

- (1)「18歳選挙権・18歳成年成立の経緯と、新学習指導要領改訂に際して、学校教育に求められた主権者教育・消費者教育の充実について」教員免許更新講習・選択講習「子どもの社会的自立と社会参画—発達段階に応じた主権者教育・消費者教育を中心に—」テキスト第2部 2021年8月 pp.27-58
- (2)「学校における主権者教育の実践に向けて—基本的な考え方—」栃木県連合教育会研究紀要第155集「新学習指導要領のもと、発達段階に応じた主権者教育の在り方Ⅱ・Ⅲ—小・中・高・特別支援学校における実践に向けた提言・提案として—」2022年1月 pp. 3-5
- (3)「学校で主権者教育を組織的・計画的に実施するために～校長のリーダーシップによる校内体制づくり」栃木県連合教育会研究紀要第155集「新学習指導要領のもと、発達段階に応じた主権者教育の在り方Ⅱ・Ⅲ—小・中・高・特別支援学校における実践に向けた提言・提案として—」 pp. 99-100 2022年1月
- (4)「社会的自立と社会参画の力を育むために～高大連携の視点から～」栃木県連合教育会研究紀要第155集「新学習指導要領のもと、発達段階に応じた主権者教育の在り方Ⅱ・Ⅲ—小・中・高・特別支援学校における実践に向けた提言・提案として—」2022

年1月 pp.101-104

- (5)「18歳選挙権及び18歳成年に関する Q & A」作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター研究紀要 10号 2022年2月 pp.31-40
- (6)「主権者教育で期待される NIE」日本新聞協会 NIE ニュース 第99号 2022年2月
- (7)「NIE 全国大会宮崎大会 まずはある範囲で」下野新聞2022年9月4日18面掲載
- (8)「どうする消費者教育～学習指導要領に基づく学校教育と消費者教育推進法に基づく消費者教育の関係・実践方法～」作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター研究紀要11号 2023年2月 pp.99-104
- (9)「大学が取り組む NIE」内外教育第7096号2023年8月 pp.13

口頭発表

- (1)「主権者として求められる力を育むために ～新学習指導要領のもと、発達段階に応じた主権者教育の在り方」栃木県教育研究発表大会 2022年1月28日 大会要項 p.2
- (2)「新学習指導要領の全面実施と主権者教育について（これからの課題）」2022年2月8日栃木県市選挙管理委員会連合会講演会
- (3)「18歳をめぐる生徒指導上の課題～学習指導要領全面実施と主権者教育・消費者教育～」私立学校初任者研修北関東研修会2022年6月9日
- (4)「主権者教育と NIE ～学習指導要領全面実施下における主権者教育の充実と NIE～」栃木県 NIE セミナー（栃木県 NIE 推進協議会）2022年6月11日 下野新聞2022年6月12日3面掲載
- (5)「どうする主権者教育 主権者教育の課題に対応した具体的な取り組み例～新聞の活用等について～」令和5年度主権者教育の充実に向けた研修会（東京都教職員研修センター）2023年6月15日
- (6)「どうする主権者教育～若年層の主権者教育の現状と効果的な取組みについて～」福島県明るい選挙推進協議会 2023年9月1日
- (7)「主権者教育の現状と学校との効果的な連携、選挙管理委員会に期待するもの」茨城県市町村選挙管理委員会県西連合会選挙事務研修会2024年1月31日

社会的活動

- (1)公益財団法人栃木県育英会 評議員選定委員会 委員（2014年4月1日～現在に至る）
- (2)学校法人作新学院 評議員（2016年4月1日～現在に至る）
- (3)高校生に対する主権者教育「18歳選挙権 あなたも主権者」等の実施（2016年4月～現在に至る）栃木県立宇都宮清陵高等学校、作新学院高等学校、栃木県立高根沢高等学校、茨城県立多賀高等学校、栃木県立小山南高等学校、栃木県立鹿沼東高等学校、栃木県立宇都宮商業高等学校、佐野日大中等教育学校
- (4)大学生に対する主権者教育、及び栃木県選挙管理委員会と選挙啓発活動の実施（2016

年6月～現在に至る)

- (5) 栃木県連合教育会主権者教育研究部会長 (2017年4月～2022年3月)
- (6) 宇都宮市もったいない運動市民会議委員 (2017年4月～現在に至る)
- (8) 総務省主権者教育アドバイザー (2017年11月～現在に至る)
- (14) 栃木県立富屋特別支援学校学校評議員 (2020年4月～2022年3月)
- (15) 宇都宮市消費生活審査会委員 (2020年4月～現在に至る)
- (16) とちぎの高校生「じぶん未来学」推進事業に係る企画委員会及びプログラム改訂ワーキンググループ委員 (2020年7月～2022年3月)
- (17) 日本新聞協会 NIE アドバイザー (2022年4月～現在に至る)
- (18) 栃木県立宇都宮清陵高等学校評議員 (2023年4月～現在に至る)

女子短期大学部幼児教育科 久野高志

社会的活動(自治体・産学界・NPO・NGO等の活動)

- (1) 北関東大学軟式野球連盟 副理事長 (2020年4月1日～2023年3月31日)
- (2) 特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房 理事 (2017年9月1日～現在に至る)
- (3) 公益社団法人日本図書館協会 短大・高専図書館部会 幹事・部会長 (2023年4月1日～現在に至る)
- (4) 公益社団法人日本図書館協会 理事 (2023年6月15日～現在に至る)

短期大学部 准教授 宍戸良子

著書

【分担執筆】

- (1) 「【幼稚園教育】保育の方法・計画・環境「保育の記録」, 保育思想・歴史「レッジョ・エミリア」】『小学校教育用語辞典』 ミネルヴァ書房 2021年5月 細尾萌子・柏木智子ほか

学術論文

【単著】

- (1) 宍戸良子: 「子どもの育ちの評価に関する学習に焦点を当てた「保育内容総論」の授業検討: 乳児向け絵本製作の演習を通して」(査読付), 作新学院大学女子短期大学部研究紀要, 臨時号, pp.15-24 2022年3月

【共著】

- (1) 設楽紗英子・宍戸良子・矢野善教: 「保育実践力と保育者効力感の自己評価の変化: 子育て支援ひろばの活動を取り入れた保育実習指導Ⅱの検討」(査読付), 作新学院大学女子短期大学部研究紀要, 5, pp.1-10 2021年12月

- (2) 設楽紗英子・宍戸良子・長澤順・矢野善教・須藤美咲・鷹箸望愛・新夕夏未・後藤明・坂本藍・篠木彩：「音楽活動を用いたオンライン子育て支援の可能性」(査読付)，作新学院大学女子短期大学部研究紀要，6(1) 2022年12月

学会での口頭発表等

- (1) 「乳児保育Ⅱ」における実習経験の図式化による振り返りがもたらす効果の検討：第7回日本保育者養成教育学会研究大会 2023年3月5日 日本保育者養成教育学会要旨集 宍戸良子
- (2) 「教育・保育課程論」におけるドキュメンテーションを活用したPDCAサイクルの見える化の試み：日本保育学会第76回大会2023年5月14日 日本保育学会第76回大会発表要旨集録 宍戸良子

社会的活動

- (1) 公益財団法人とちぎ未来づくり財団評議員 (2017年12月～現在に至る)
- (2) 保育士等キャリアアップ研修「幼児教育」分野における講師 (2021年：全3回、2022年全2回、2023年全2回)
- (3) 幼保連携型認定こども園愛泉幼稚園園内研修の講師 (2021年8月28日)
- (4) 令和5年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「指定保育士養成施設及び実習先保育所の実習指導担当者に対する効果的な研修の在り方に関する調査研究」ワーキング部会構成員 (2023年7月14日～2024年3月31日)
- (5) 第70回栃木県幼稚園教育研究大会の第12分科会「保護者と連携して子どもの成長を見守る為に」における助言者 (2023年8月23日)
- (6) 天栄保育所移転整備検討委員会におけるアドバイザー (2023年11月20日～2024年1月19日)
- (7) 天栄保育所移転整備検討委員会における研修講師 (2023年12月22日)

競争的資金等の研究課題

- (1) 「異業種連携による子育て支援のための写真付きテキスト・映像コンテンツ制作」作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 令和3年度 教育・研究開発改善経費 2021年 宍戸良子，阿部範子
- (2) 「異業種連携による子育て支援のための教材及びプログラム開発」作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 令和5年度 教育・研究開発改善経費 2023年 宍戸良子，阿部範子
- (3) 「自己評価をアクティブ・ラーニングにつなげる振り返り方法の検討」作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 令和5年度 教育・研究開発改善経費 2023年 宍戸良子

幼児教育科 准教授 矢野善教

著書

- (1)兼松忠雄・矢野善教：「第4章 差別や偏見、生きづらさと向き合う 第5節 今日この場所にあり続けること―障害をもつ人が働く喫茶コーナーの30年」, 小林繁・松田泰幸・月刊社会教育編集委員会（編）『障がいをもつ人の生涯学習支援：インクルーシブな学びを求めて24の事例』, 旬報社 pp.207-209, 2021年7月25日.
- (2)矢野善教：「喫茶コーナー かくろん 特別支援学校と喫茶コーナー」, 障害をもつ市民の生涯学習研究会館（編）小林繁・兼松忠雄・打越雅祥『障がい者が主役のカフェ喫茶を地域にひらく―喫茶がつなぐ まち ひと 共生―』, ゆじょんと, pp.38-43, 2022年7月24日.
- (3)矢野善教：「第12章 学校で進める事例検討会議」, 大石幸二（編著）, 花生典幸（著）『通常学級における新たな学校改善術：特別支援教育からのアプローチ』, 学苑社, pp.113-122, 2024年2月1日.

学術論文（※査読あり）

【単著】

- (1)矢野善教：「我が国の不登校行動に対する行動論的支援の実態と今後の展望」, 地域ケアリング 24(7), pp.80-83, 2022年6月13日. ※
- (2)矢野善教：「我が国の不登校行動に対する行動論的支援の実態と今後の展望」, 地域ケアリング 26(1), pp.72-74, 2024年1月12日. ※

【共著】

- (1)矢野善教・小栗貴弘・小栗香奈子：「高等学校における特別支援教育の現状と課題―校内支援体制・校外連携・通級による指導を通して―」, 作大論集 Vol.13, pp.125-138 2021年8月30日
- (2)設楽紗英子・宍戸良子・矢野善教：「保育実践力と保育者効力感の自己評価の変化：子育て支援ひろばの活動を取り入れた保育実習指導Ⅱの検討」, 作新学院大学女子短期大学部研究紀要, 5, pp.1-10 2021年12月
- (3)矢野善教・小栗貴弘：「高等学校における教育相談の現状と課題―教育相談の変遷・チーム学校・生徒指導・特別支援教育との関連を通して―」, 作大論集 Vol.14, pp.121-131 2022年2月15日.
- (4)矢野善教・永野星空・永山来海・鳴海奈都羽・仁平彩・野澤さくら・菱沼里佳・平山莉帆・蛭川つばさ・廣木美香・廣木里奈：「短大生による気になる子どもの行動に対する支援計画の分析―学生&企業研究発表会での発表を通して―」, 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部教職実践センター研究紀要(10), pp.3-12, 2022年2月28日.

- (5)小倉庸寛・設楽紗英子・矢野善教：「[人間関係（指導法）]に関する一考察－異年齢保育の事例から－」，作新学院大学女子短期大学部研究紀要 臨時号，pp.39-48，2022年3月．※
- (6)矢野善教・設楽紗英子「短期大学におけるリカレント教育の現状と課題－第1回作新リカレント教育講演会の実践を通して－」，作新学院大学女子短期大学部研究紀要，6(1) 2022年12月
- (7)設楽紗英子・宍戸良子・長澤順・矢野善教・須藤美咲・鷹箸望愛・新夕夏未・後藤明・坂本藍・篠木彩「音楽活動を用いたオンライン子育て支援の可能性」，作新学院大学女子短期大学部研究紀要，6(1) 2022年12月

学会での口頭発表等

- (1)矢野善教：「保育者養成校短期大学生の気になる子どもに対する個別の保育・指導計画の立案までの過程」，日本特殊教育学会第59回大会，ポスター発表，2021年9月20日．
- (2)大橋智・榎本拓哉・遠藤愛・小川洗菜・矢野善教・半田健：「遠隔支援技術を用いた特別支援教育巡回相談の展開①－遠隔支援技術の導入に関わる障壁の検討－」，日本特殊教育学会第60回大会，自主シンポジウム，2022年9月．
- (3)小野昌彦・奥田健次・江角周子・矢野善教・前田直樹・山田達人：「不登校への認知・行動療法アプローチの現在－増加する不登校に如何に対応するか－」，日本認知・行動療法学会 第48回大会，自主企画シンポジウム，2022年9月30日．
- (4)大橋 智，榎本 拓哉，遠藤 愛，小川 洗菜，原口 政明，矢野 善教：「遠隔支援技術を用いた巡回相談支援システムの社会実装①：Apple Schoolwork システムを用いた支援システムの開発」日本特殊教育学会第61回大会ポスター発表 2023年8月26日．
- (5)遠藤 愛，榎本 拓哉，大橋 智，小川 洗菜，原口 政明，矢野 善教：「遠隔支援技術を用いた巡回相談支援システムの社会実装②：通級指導教室における活用可能性の検討」日本特殊教育学会第61回大会ポスター発表 2023年8月26日．
- (6)矢野 善教，大橋 智，遠藤 愛，榎本 拓哉，小川 洗菜，原口 政明：「遠隔支援技術を用いた巡回相談支援システムの社会実装③－高等学校における活用可能性の検討－」日本特殊教育学会第61回大会ポスター発表 2023年8月26日．
- (7)小野昌彦，山田達人，前田直樹，大前泰彦，矢野善教，江角周子，奥田健次：「不登校への認知・行動療法アプローチの現在2－スクールカウンセラーによる再登校支援の効果と課題」日本認知・行動療法学会第49回大会自主シンポジウム 2023年10月8日．
- (8)木村 玲那，前田 直樹，田村 典久，岡田 悠佑，山田 達人，江角 周子，田中 佑樹，矢野 善教，岩崎 美奈子，小野 昌彦：「不登校児童生徒に対する CLISP-dd（トッパダウ

ン編)の適用可能性の検討」, 日本認知・行動療法学会第49回大会ポスター発表2023年10月9日.

社会的活動

【派遣巡回相談員】

- (1)埼玉県熊谷市特別支援教育(小中学校・幼稚園・保育園)巡回相談員(2011年～現在に至る)
- (2)埼玉県入間市不登校対策事業スーパーヴァイザー(2013年～現在に至る)
- (3)埼玉県越谷市発達支援訪問巡回相談員(2013年～現在に至る)
- (4)埼玉県立高等学校特別支援教育巡回相談員(2013年～現在に至る)
- (5)埼玉県戸田市発達支援巡回相談員(2020年～現在に至る)

【研修講師】

- (1)埼玉県保育士キャリアアップ研修会「障害児保育」(2021年7月10日, 17日)
- (2)栃木県連合教育会不登校セミナー「行動療法に基づく不登校対応」(2021年7月18日)
- (3)令和3年度共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業「中学校から高等学校等へ支援をつなぐ特別支援教育研修【管理職研修】」(2021年7月29日)
- (4)埼玉県保育士キャリアアップ研修会「障害児保育」(2021年9月4日, 11日)
- (5)埼玉県入間市なるほど講演会「コロナ禍における不登校・登校しぶり児童生徒への対応について」(2021年11月25日)
- (6)第41回全国障害者技能競技大会技能競技補佐員(2021年12月16日-18日)
- (7)浦安市市民後見人養成事業スキルアップ研修会「非言語コミュニケーションおよび障害のある人とのコミュニケーションについて」(2022年1月22日)
- (8)埼玉県保育士キャリアアップ研修会「保護者支援・子育て支援」(2022年2月26日, 3月5日)
- (9)栃木県連合教育会不登校セミナー「行動療法に基づく不登校対応」(2022年7月23日)
- (10)令和4年度共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業 中学校から高等学校等へ支援をつなぐ特別支援教育研修【管理職研修】(2022年8月3日)
- (11)埼玉県立入間市立黒須中学校校内研修会「不登校および不登校傾向の子どもへの関わり方」(2022年8月24日)
- (12)第1回作新リカレント教育講演会「はたらき始めてわかるコミュニケーションの大切さ～つながる・引き出す・つなげる～」(2022年8月28日)
- (13)埼玉県保育士キャリアアップ研修会「障害児保育」(2022年10月15日, 22日)
- (14)埼玉県第2回特別支援学校コーディネーター研修会(2022年11月2日)
- (15)第42回全国障害者技能競技大会技能競技補佐員(2022年11月3日-6日)
- (16)埼玉県入間市なるほど講演会「コロナ禍における不登校・登校しぶり児童生徒への対

- 応について」(2022年11月24日)
- (17)埼玉県保育士キャリアアップ研修会「障害児保育」(2023年1月14日)
- (18)埼玉県保育士キャリアアップ研修会「障害児保育」(2023年1月21日)
- (19)令和4年度特別支援教育指導力向上研修会「事例研修」(2023年2月2日)
- (20)栃木県カウンセリング協会スクールソーシャルワーク講座(2023年2月17日)
- (21)栃木県カウンセリング協会スクールソーシャルワーク講座(2023年2月24日)
- (22)栃木県カウンセリング協会スクールソーシャルワーク講座(2023年3月3日)
- (23)埼玉県立北本高等学校特別支援教育校内研修会(2023年3月10日)
- (24)栃木県カウンセリング協会スクールソーシャルワーク講座(2023年3月10日)
- (25)令和5(2023)年度第1回スクールソーシャルワーカー研修会(2023年7月20日)
- (26)栃木県連合教育会不登校セミナー「行動療法に基づく不登校対応」栃木県連合教育会(2023年7月22日)
- (27)埼玉県入間市立向原中学校校内研修会「Q-U学級集団アセスメントを用いた支援の展開」埼玉県入間市立向原中学校 埼玉県入間市立向原中学校(2023年7月24日)
- (28)令和4年度共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業 中学校から高等学校等へ支援をつなぐ特別支援教育研修【管理職研修】(2023年8月4日)
- (29)埼玉県立鴻巣女子高等学校令和5年度特別支援教育指導力向上研修会(2023年11月22日)
- (30)埼玉県入間市なるほど講演会「コロナ禍における不登校・登校しぶり児童生徒への対応について」(2024年1月17日)